

## 論文審査の要旨

本研究は、大学生を対象に心理質問紙による調査を重ね、精神的健康に関連のある認知的要因とアレキシサイミアについて検討した一連の研究結果によって構成されている。アレキシサイミアは心身症の状態像として提起された臨床的な概念であるが、近年、特性としてのアレキシサイミアに対する関心が高まっている。本研究は、研究科の規程にしたがって4月に予備論文が提出され、博士論文の水準を満たすものとして本論文の提出が認められた。12月に提出された本論文においては、主に第6章に含まれる3つの分析結果が新たに示された。

本研究は、まず精神的健康の代表的な指標と考えられる抑うつと不安の併存への着目から始まる。これまでは両者の違いと特異的な認知要因が強調されてきたが、近年はその併存について議論されている。第2章において、これまで不安や抑うつとの関連が報告されてきた特異的な認知要因が抑うつと不安の併存群においてどのように関連しているのかを検討している。その上で、両者に共通する問題として感情調整の障害を指摘している。この感情調整には認知的な要因も関連し、それは発達の形成されてきたものである可能性が論じられている。この精神的健康と認知要因に関連する感情調整の障害について検討するためにアレキシサイミアが取りあげられた。

そして、第3章以下においてアレキシサイミアを変数として含む一連の研究結果を示している。まず第3章において、アレキシサイミアを測定する代表的な心理尺度の研究結果を概観し、またアレキシサイミアの発達の形成に関わる脳画像研究などの知見について論じている。その上で、第4章において、複数の認知要因とアレキシサイミア、精神的健康の関連について検討した結果が示され、アレキシサイミアと精神的健康の関連の強さが確認されている。第5章においては、第4章までの実証的、理論的な結果を受けて、認知要因とアレキシサイミアに対する親子関係の関連を検討している。その結果、特に心理的な自立を阻害する親子関係が子どものアレキシサイミアを促進する可能性を提示している。また、第2章で示された抑うつと不安の併存群の特徴について異なる尺度による再検討を行なっている。さらに第6章では、第4章と第5章のデータをもとに3変数の包括的な統計的モデルについて検討している。その結果、複数の認知要因がアレキシサイミアを促進し、アレキシサイミアが精神的健康を悪化させるという変数間の影響関係を提示している。また、親子関係の複数の認知要因の形成に対する影響を示唆している。このような結果から、複数の認知要因とアレキシサイミアの関わりについて同時に調べることの重要性を述べるとともに、複数の否定的認知がアレキシサイミアに関わるという結果について考察している。

本論文における一連の研究結果は、さまざまな観点からアレキシサイミアに関わる認知要因について検討したものであり、アレキシサイミアに対する心理学的理解を深め、精神的健康の向上を目指す研究領域に対して重要な知見を提示している。以上のことから、本審査委員会は、学位論文の審査基準に基づいて慎重に審査した結果、本研究が博士（人間文化学）の学位を授与するのに相応しいものであると認めた。